

グリーン調達ガイドライン



制 定 2003 年 2月 10 日
適用実施 2003 年 4月 1 日
第19版改訂 2018年 4月 27日

ヤマハ発動機株式会社

目次

1. はじめに

2. ヤマハ発動機グループの環境活動

2. 1 地球環境に関する考え方

2. 2 環境活動

3. お取引先へのお願い事項

3. 1 環境マネジメントシステムの構築と運営

3. 2 環境負荷物質の管理

1) ヤマハ発動機製品、及びヤマハ発動機製品とともに出荷されるもの

2) ヤマハ発動機製品とともに出荷されないもの

3. 3 温室効果ガス排出量削減

3. 4 資源の有効利用と循環利用

3. 5 水使用量削減

3. 6 生物多様性

3. 7 環境教育(エコマインド)、感覚環境改善(臭気、騒音など)と環境コミュニケーション

3. 8 お取引先へのその他のお願い事項

1. はじめに

ヤマハ発動機グループは、1990年代初頭、『地球環境重視の経営』を打ち出し、1991年には、『地球環境方針』を制定し、以来、環境を経営の重要な柱と認識し、現在も環境活動に積極的に取り組んでおります。

昨今は、ESGが企業の価値に大きな影響を与えるようになり、環境(E)は、ESGの重要な取り組み項目となっております。併せて最近の環境動向をみると、環境負荷物質に関する規制が各国・各地域で次々と制定されています。グローバルに活動を展開するヤマハ発動機グループでは、各国・各地域の環境負荷物質規制を遵守するため、環境負荷物質の管理を徹底しております。

環境負荷物質の管理活動をはじめ、温暖化防止、循環型社会の形成、水リスクへの対応、生物多様性活動など、環境活動は何れをとっても、地球規模の課題であり、私どもと価値観を共有いただけるお取引先の皆様と一体となる環境活動の推進なくしては、持続可能な社会の実現はありえません。

お取引先におかれましても、ヤマハ発動機グループの環境への考え方や取り組みを理解いただき、本ガイドラインに基づき、積極的な環境活動の推進をお願い致します。

ヤマハ発動機株式会社

環境委員会 委員長

取締役



2. ヤマハ発動機グループの環境活動

2.1 地球環境に関する考え方

ヤマハ発動機株式会社は環境活動を進めるにあたり、企業理念及びCSR基本方針に基づいた活動を推進します。

<経営理念(抜粋)>

＝社会的責任のグローバルな遂行＝

私たちは、世界的な視野と基準で行動しなければならない。
地球環境や社会との調和に努め、公正で誠実な事業活動を通じて、
社会的責任を果たす企業でなければならない。

<CSR基本方針(抜粋)>

ヤマハ発動機グループは、社会から信頼される企業として、国内外の法令ならびにその精神を遵守するとともに、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切にし、企業理念に基づく事業活動を通じて、社会の持続可能な発展に貢献します。
取引先様においても、この方針の趣旨を支持し、それに基づいて行動することを期待します。

＝地球環境(抜粋)＝

- ・環境技術の開発を進め、環境と経済が両立した製品の実現をめざします。
- ・限りある資源を大切にし、事業活動による環境負荷の最小化に努めます。
- ・幅広く社会と連携・協力し、環境保全活動に取り組みます。

2.2 環境活動

ヤマハ発動機グループは環境計画2020に沿ってグローバルな視点で環境負荷の低減を目指し、環境活動を推進しております。具体的には4つの取り組み分野と9つの重点取り組み項目を設定し、活動を展開しております。

<4つの取り組み分野>

- | | |
|------------|-------------|
| 1)エコプロダクツ | 2)エコオペレーション |
| 3)エコマネジメント | 4)エコマインド |

<9つの重点取り組み項目>

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1)環境マネジメントの構築と運営 | 2)環境負荷物質の管理 |
| 3)温室効果ガス排出量削減 | 4)資源の有効利用と循環利用 |
| 5)水使用量削減 | 6)生物多様性 |
| 7)環境教育(エコマインド) | 8)感覚環境改善(臭気、騒音など) |
| 9)環境コミュニケーション | |

3. お取引先へのお願い事項

お取引先においても、当社の環境活動を理解し、それに基づいた活動をお願い致します。

3. 1 環境マネジメントシステムの構築と運営

ヤマハ発動機グループは環境マネジメント体制を構築し、環境活動を組織的、かつ効率的に推進しています。お取引先におかれましても環境マネジメント体制を構築し、運営をお願い致します。

具体的には、下記(1)～(3)のいずれかを満たすようお願い致します。

(1)ISO14001の認証取得による環境マネジメント・システムを構築している。

(2)環境省「環境活動評価プログラム(エコアクション21)」に参加している。

※日本国内のみ

(3)上記以外の場合には、以下を満たしている。

①環境に関する「環境方針」、「目標及び目標達成のための実行計画」がある。

②環境に関する管理責任者、組織、等を設置し、削減目標を持った適切な環境管理活動を行っている。

③環境に関する法規制を遵守している。

④以下の項目について、環境への積極的な取り組みがなされている。
(仕組みがあり、自主基準の運用により評価を行っている。)

- ・事業のリスクと機会を把握し、優先順位の高い環境活動を積極的に取り組んでいる。
- ・ヤマハ発動機グループの9つの重点取り組み項目に対応する活動に取り組んでいる。

⑤環境に関する緊急事態への対応方法が明確化されている。

3. 2 環境負荷物質の管理

昨今、環境負荷物質に関する規制が各国、各地域で次々と制定されています。グローバルに活動を展開するヤマハ発動機グループでは、各国、各地域の環境負荷物質規制を遵守するため、環境負荷物質の管理を徹底しております。環境負荷物質の管理におきましては、お取引先の協力が不可欠となります。お取引先におかれましても、化学物質管理の徹底をお願い致します。

具体的には“表1 お取引先への環境負荷物質管理依頼一覧表”に沿った管理をお願い致します。

表1 お取引先への環境負荷物質管理依頼一覧表

	ヤマハ発動機の製品、及びヤマハ発動機製品とともに出荷されるもの				ヤマハ発動機の製品とともに出荷されないもの
対象	部品 補給部品	原材料	梱包材(※1)	副資材(※1) 用品	梱包材(※2) 副資材(※2) 間材(※2) 設備 仕入品 建設材料
指示	図面 (外設依頼書)	YGK 材料仕様書等	図面 (含む図面相当のもの)	グリーン調達ガイドライン	グリーン調達ガイド ライン
管理物質	YGK-A-119	YGK-A-119	YGK-A-119	YGK-A-119	グリーン調達ガイド ライン表2
確認方法	・YGK-A-119遵守誓約書 ・IMDS など	・YGK-A-119遵守誓約書 ・IMDS など	・YGK-A-119遵守誓約書 ・IMDS など	・YGK-A-119遵守誓約書 ・IMDS など	不使用誓約書 など
確認時期	個別依頼時 ※新規設定時 図面改訂時 工程変更時など	個別依頼時 ※新規設定時 材料成分変更時など	個別依頼時 ※新規設定時 構成材料成分変更時など	個別依頼時 ※新規設定時 構成材料成分変更時など	個別依頼時 ※新規取引開始時 対象物質リスト 変更時など

※1 : ヤマハ発動機の製品とともに出荷されるもの

※2 : ヤマハ発動機の製品とともに出荷されないもの

IMDS (International Material Data System)

当社を含む世界の四輪・二輪メーカーが、個々の部品にどのような化学物質が使用されているかを管理するために運用しているインターネット上の材料データベース。

1) ヤマハ発動機製品、及びヤマハ発動機製品とともに出荷されるもの

<該当例>

製品や製品を構成する部品、補給部品、生産用原材料、梱包材(※1)、副資材(※1)、用品など

<基準>

ヤマハ技術規程『環境負荷物質管理基準YGK-A-119』の遵守をお願い致します。

<お取引先へのお願い事項>

- ・当該品を納入するお取引先には、各社一葉の“YGK-A-119遵守誓約書”などの提出をお願い致します。
- ・ご提出いただいたYGK-A-119遵守誓約書などは、YGK-A-119の改訂があった場合も、常に最新のYGK-A-119を誓約の対象とさせていただきます。

- ・当該品について、当社よりIMDSデータ等により、納入品の成分データの提出をお願いすることがあります。依頼がありましたら、指定期日までに提出下さい。
- ・構成する材料変更等により、提出いただいたIMDSデータ等納入品成分データに変更があった場合、弊社の要請の有無に関わらず、必ず再提出をお願い致します。
- ・製品群、用途、使用環境や使用される国や地域などの事情により、『YGK-A-119』とは別にヤマハ発動機グループ各社より、管理する物質が制定される場合があります。その場合、追加された物質の管理も併せてお願い致します。

2) ヤマハ発動機の製品とともに出荷されないもの

<該当例>

工場間保護用梱包材(※2)、工場副資材(※2)、間材(※2)、設備、仕入品(他社ブランド品など)、建屋建設材料など

<基準>

グリーン調達ガイドライン“表2グローバル共通禁止物質”の遵守をお願い致します。

表2は国際的に共通で禁止している化学物質のみを規定しています。用途、使用環境や使用される国や地域の規制等により、“表2 グローバル共通禁止物質”とは別にヤマハ発動機グループ各社より、管理する物質が制定される場合があります。

<お取引先へのお願い事項>

- ・当社よりお取引先には各社一葉の不使用誓約書などの提出をお願いすることがあります。依頼がありましたら、指定期日までに提出下さい。
- ・不使用誓約書など提出後、グリーン調達ガイドライン表2に改訂があったり、グリーン調達ガイドライン表2とは別にヤマハ発動機グループ各社より、管理する物質が追加された場合には、再度不使用誓約書などの提出をお願いすることがあります。依頼がありましたら、指定期日までに提出下さい。
- ・不使用誓約書など提出後、新たに納入する当該品が発生した場合も提出いただいた不使用誓約書などの対象とさせていただきます。
- ・当該品に関し、含有される環境負荷物質とその量を把握するため、含有状況の報告・SDSの提出などにより、調査を実施させていただくことがあります。

表2 グローバル共通禁止物質

対象規制など	化学物質名	CAS 番号 (一意に決まる場合)	閾値
ストックホルム条約 付属書A(廃絶)	アルドリン	309-00-2	なし(適切な分析方法において検出されない)
	α -ヘキサクロロシクロヘキサン	319-84-6	
	β -ヘキサクロロシクロヘキサン	319-85-7	
	クロルデン又はヘプタクロル	57-74-9等	
	クロルデコン	143-50-0	
	ディルドリン	60-57-1	
	エンドスルファン又はベンゾエピン	115-29-7 等	
	エンドリン	72-20-8	
	ヘキサブロモビフェニル	36355-01-8 等	
	ヘキサブロモシクロデカン	3194-55-6 等	
	ヘキサブロモジフェニルエーテル	36483-60-0 等	
	ヘプタブロモジフェニルエーテル	68928-80-3 等	
	ヘキサクロロベンゼン	118-74-1	
	ヘキサクロロプタ-1,3-ジエン	87-68-3	
	γ -ヘキサクロロシクロヘキサン又はリンデン	58-89-9	
	マイレックス	2385-85-5	
	ペンタクロロベンゼン	608-93-5	
	ペンタクロロフェノール、その塩及びエステル類	87-86-5 等	
	ポリ塩化ビフェニル(PCB)	1336-36-3 等	
	ポリ塩化ナフタレン(塩素数が2以上のものに限る。)	2050-69-3 等	
テトラブロモジフェニルエーテル	5436-43-1		
ペンタブロモジフェニルエーテル	60348-60-9		
トキサフェン	8001-35-2		
短鎖塩素化パラフィン(SCCP)	85535-84-8 等		
デカブロモジフェニルエーテル	1163-19-5		
ストックホルム条約 付属書B(制限)	1, 1, 1-トリクロロ-2, 2-ビス(4-クロロフェニル)エタン (別名DDT)	50-29-3	なし(適切な分析方法において検出されない)
	ペルフルオロ(オクタン-1-スルホン酸)(別名PFOS)又はその塩、ペルフルオロ(オクタン-1-スルホン酸)フルオリド(別名PFOSF)(※3)	1763-23-1 等	
水俣条約	水銀及びその化合物	7439-97-6 等	特定水銀使用製品により水銀含有量の閾値あり(※4)
モントリオール議定書 付属書A	CFCs (CFC-11, FC-12, CFC-113, CFC-114, CFC-115)	75-69-4 等	なし(適切な分析方法において検出されない)
	ハロン	353-59-3 等	
モントリオール議定書 付属書B	その他の CFCs (CFC-13, CFC-111, CFC-112, CFC-211, CFC-212, CFC-213, CFC-214, CFC-215, CFC-216, CFC-217)	75-72-9 等	
	四塩化炭素	56-23-5	
モントリオール議定書 付属書C	1,1,1-トリクロロエタン(メチルクロロホルム)	71-55-6	
	HBFCs	1868-53-7 等	
モントリオール議定書 付属書D	ブロモクロロメタン	74-97-5	
	臭化メチル	74-83-9	

※3 PFOSは以下の目的・用途を除外する。

- ・写真感光材料
- ・半導体用途
- ・フォトマスク
- ・医療機器
- ・金属メッキ
- ・泡消火剤
- ・カラープリンター用電気電子部品
- ・医療用CCDカラープリンター など

※4 特定水銀使用製品の水銀含有量の閾値は水銀条約の条文をご覧ください。

3.3 温室効果ガス排出量削減

ヤマハ発動機グループでは温室効果ガス排出量削減を環境の重要取り組み項目として掲げています。温室効果ガス排出量削減にはライフサイクル全体で、取り組むことが大切であると考えています。お取引先におかれましても、事業活動全体で温室効果ガス排出量削減のための活動推進をお願い致します。

- 1) 納入品の全ライフサイクル(製造、輸送工程など)について使用エネルギーの低減をお願い致します。
- 2) 納入品そのものの消費エネルギー効率の改善をお願い致します。
- 3) 再生可能エネルギーの積極的な活用をお願い致します。

3.4 資源の有効利用と循環利用

ヤマハ発動機グループは、限りある資源を有効に利用し、循環型社会を形成することが、持続可能な社会の実現に不可欠と考えています。お取引先におかれましても、投入する資源を最小化する取り組みをお願い致します。

- 1) 省資源化への配慮をお願い致します。
 - ・天然資源の使用削減
 - ・包装材料の削減
 - ・製造時における投入資源と排出物削減、及び廃棄物の低減
- 2) 再使用可能性への配慮をお願い致します。(再使用容易化、長寿命化など)
- 3) リサイクル可能性への配慮をお願い致します。
(材料リサイクル、熱回収リサイクルなど)
- 4) 処理・処分容易性への配慮をお願い致します。(分解性／破碎処理容易化など)

3.5 水使用量削減

地球環境の変化にともない、世界の各地で渇水や洪水が頻繁に発生するようになり、一度発生すると、その被害はより深刻になっています。ヤマハ発動機グループでは各国各地域の水リスクを考慮して、リスクに応じた水使用量削減の活動を推進しています。お取引先におかれましても、各国、各地域、立地を考慮した水リスクへの対応をお願い致します。

- 1) 取水量を最小限とする節水活動、再利用技術の活用をお願い致します。
- 2) 立地ごとの水リスクを把握し、リスクに応じた活動をお願い致します。

3.6 生物多様性

ヤマハ発動機製品が躍動するのは自然豊かなフィールドをはじめとする様々な環境です。弊社製品のフィールドの一つである自然環境を豊かにするのに欠かせないのは、生物多様性です。弊社は、“生物多様性基本取り組み姿勢”の基、環境保護活動を積極的に行っております。お取引先におかれましても、生物多様性の積極的な活動をお願い致します。

- 1) 企業活動が与える生物多様性への影響を把握し、最小化となるように配慮をお願い致します。
- 2) 生物多様性の危機に対し、地球環境との調和に配慮した自然を守り、育む活動の推進をお願い致します。

3.7 環境教育(エコマインド)、感覚環境改善(臭気、騒音など)と環境コミュニケーション

お取引先には環境教育(エコマインド)、感覚環境改善(臭気、騒音など)と環境コミュニケーションの活動への取り組みもお願い致します。

3.8 お取引先へのその他のお願い事項

お取引先における環境活動への取り組み状況につきまして、調査を実施させていただくことがあります。ご協力をお願い致します。

改訂履歴(1)

改訂番号	年月日	理由・内容
第1版	2003年6月30日	ジクロロメタンを使用禁止または制限する物質に追加 (P.5に記載)
第2版	2004年6月30日	【使用禁止物質】 アゾ化合物、ジクロロメタンを追加 【代替を推進する物質】 塩化ビニルを削除。短鎖型塩素化パラフィン、砒素及び 砒素化合物を追加。対象とする全ての用途を再確認し、 修正
第3版	2004年12月29日	適用範囲をヤマハ発動機よりヤマハ発動機グループに 拡大 表2中、『代替完了期限』を『含有禁止開始日』に変更 表2中、六価クロムの含有禁止開始日の見直し 表2中、六価クロムの除外用途に亜鉛-鉄合金めっき、 亜鉛-ニッケル合金めっきのクロメートを追加
第4版	2005年8月1日	制定目的に『自主取組みの精神の下』を追加 ガイドラインの製品群、部品、地域に合わせて事業部、 拠点、グループ会社毎の扱いを追加 表2中、鉛含有電子基盤及びその他の電気はんだの含 有禁止開始日削除 表2中、補給部品の扱いを追加 表3「削減を求める物質」を追加 C物質(管理抑制)の扱い追加
第5版	2005年12月28日	グリーン調達推進方法を追加 補給部品の扱いを変更 C物質表を追加
第6版	2006年7月1日	発行責任を環境企画推進部会に変更 使用禁止物質の副生成物の扱いを明確にした。 化審法第1種特定化学物質に2-(2H-1, 2, 3-ベンゾトリ アゾール-2-イル)-4, 6-ジ-tert-ブチルフェノールを追加 (表1,表2)

改訂履歴(2)

改訂番号	年月日	理由・内容
第7版	2006年12月28日	化審法第1種特定化学物質に2,2,2-トリクロロ-1,1-ビス(4-クロロフェニル)エタノール(別名ケルセン又はジコホル),ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンを追加
第8版	2007年7月1日	制定目的と適用範囲に 環境負荷物質削減大日程表の文を追加
第9版	2007年12月28日	1. アスベストを規制値の厳しい法令側に移動
第10版	2008年8月1日	禁止物質を1種類追加
第11版	2010年7月30日	1. 「D物質」、「C物質」の定義見直し 2. 環境負荷物質不使用誓約書依頼について記述追加 3. 補給専用部品の代替期限について表現変更 4. 「D物質」、「C物質」の対象法令の改正情報更新
第12版	2010年11月19日	『表1 使用禁止物質』の誤記訂正
第13版	2012年4月27日	制定目的の見直し 「地球環境方針」を「地球環境に関する考え方」に変更 環境負荷物質の適用範囲の見直し 「表1 使用禁止物質」の「2-(2H-1, 2, 3-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4, 6-ジ-tert-ブチルフェノール」の除外用途を削除 「表1 使用禁止物質」に「PFOS又はその塩」を追加 「表2 代替を推進する物質」の誤記訂正 「表2 代替を推進する物質」のSc「2-(2H-1, 2, 3-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4, 6-ジ-tert-ブチルフェノール」、Sh「1,2,5,6,9,10-ヘキサブromoシクロデカン」は、それぞれ地域・用途限定していたが、グローバル適用としたため、表2から削除 表2の注意書き「含有とみなさない条件」を見直し
第14版	2013年10月31日	禁止物質を12種類追加
第15版	2015年1月30日	1. 表1のHBCDをShからScに移行 2. 表3のDcの条文番号誤記訂正
第16版	2016年4月1日	禁止物質を2種類追加

改訂履歴(3)

改訂番号	年月日	理由・内容
第17版	2017年7月1日	1. 環境活動について記述見直し 2. 禁止物質を2種類追加
第18版	2018年1月1日	禁止物質など全面見直し
第19版	2018年4月27日	表2にSCCP、デカブロモジフェニルエーテルと水銀化合物を追加

< お問い合わせ先 >

ヤマハ発動機株式会社

人事総務本部 リスク管理部
CSR・環境マネジメントグループ

e-mail: env.tech@Yamaha-motor.co.jp